

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 子どもを取り巻く環境の変化が遊びに影響をもたらしていることが分かりました。子ども自身が主体的な遊びや生活ができるように子どもの側に立って、客観的に見るのではなく一緒に笑い、子どもを尊敬の心をもってみるのが大切です。子どもと一緒に心身の状態を考えて共感していくこと、子ども一人一人の状態を把握しながら集団の中で子ども同士の関わりを大切にして子どもが発達段階に応じた主体的な遊びを行うことなど、子どもの成長にとって遊びが大切であると学ぶことができました。
- ◆ 子どもの世界では、遊ぶことも学ぶことも渾然一体でほとんど区別がありません。遊びの中で学んでいるし、学びは遊び心をもって生じています。子どもの遊びの環境として①時間（遊びを保障する時間）、②空間（子どもの居場所）、③仲間（受け止めてあげる大人でもよい）の3つの間が大事です。支援員として大人として子どもを見守り、共感し一緒に笑い、認める援助を心がけていこうと思います。
- ◆ 遊びにおいて他者と交わりながら自発的・主体的に工夫し、成し遂げていくことで子どもの成長があるのだと学びました。また、非認知的能力を高めることも大切で、色々なことと関係性があり、支援員は柔軟に安心して頼れる存在である必要があると思います。子どもを人として肯定し、認めてあげることが自己肯定に繋がっていくので子どもの心に届く援助をしていかなければならないと思いました。
- ◆ 今回講師の話聞いて、普段保育園で働いていることが役立ち、年齢は違えど子どもたちへのまなざしは同じでいいんだなと思いました。遊びを通してたくさんの子どものたちが感じ、考え、人と繋がっていることが分かりました。保育っていいなと感じると同時に、自分もかつては子どもだったことを思い出しながら、環境の変化の中でも時間、空間、仲間を保障した生活から非言語能力を得る感覚や非認知能力が養われていくことを意識して、今は目の前の子どもたちと同じ目線で一緒に生活していくことを大事にしていきたいです。
- ◆ 子どもの成長にとって、遊びがどれだけ大事なのかを改めて学びました。「○○遊び」と名の付くものだけでなく、その子が楽しいと思ったことはすべて「遊び」となり、更に自分で遊びに名前を付け、幼児期の遊びが楽しかったと思える体験が子どもたちの主体的な遊びに繋がっていくと実感しました。また、普段は読み手ですが、誰かに絵本を読んでもらうことの心地よさを感じました。心動かす子どもたちに育ってほしいと心に刻んで、今日の研修をいかしていきたいと思いました。